

新発田市・豊浦町 合併の記録

新発田市



はじめに

平成15年7月7日、新発田市と豊浦町は合併を実現し、人口9万人を擁する新しい新発田市としてスタートいたしました。

今日の地方行政においては、地方分権の推進、少子・高齢化社会や多様化する住民ニーズへの対応など、新たな課題に的確に対処していく必要に迫られております。とりわけ、住民に一番身近な市町村においては、その行財政基盤の強化を図り、自己決定・自己責任が求められる時代を迎えました。時代の要請にこたえ、住民福祉の維持・向上を図るため、新発田市と豊浦町は「合併」という手法を選択し、県北地方の中核都市として更なる発展を目指すことといたしました。

新発田市と豊浦町は、地理的にも歴史的にも結びつきが強く、行政の事務・事業について共同処理する部分も多く、文化・経済・医療など生活圏の一体化が進んでおり、合併推進への土壌はできていました。

とはいえ、合併の実現に至るまでには、いくつかの困難な課題があったことも事実です。これらの課題を一つ一つ克服し、合併を成功させた背景には、両市町の議会が新発田市・豊浦町議員協議会を設立し、10年来にわたる活動を通じて互いの地域の発展のために尽力されたことにより、議会同士、さらには市民と町民の皆様方の間においても、信頼関係が築かれていたことが大きな要因であったと言えます。

本書は、合併に至るまでの背景や経過についてまとめたものでございます。両市町の合併に際し、ご指導ご協力いただいた関係各位に、深甚なる感謝を申し上げます。今後は、両市町が長い年月にわたって培ってきた伝統と文化を基に、新しい新発田市の一層の発展に全力を尽くしてまいります所存でございます。市民の皆様方をはじめ、関係各位の更なるご支援ご協力をお願い申しあげ、巻頭のごあいさつとさせていただきます。

新発田市長 片山吉忠



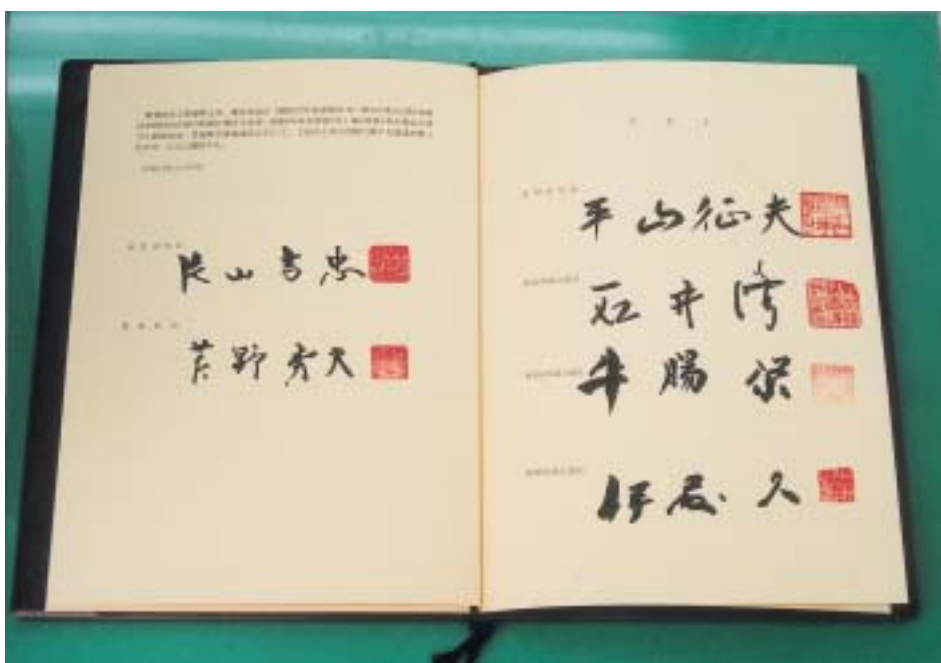
新発田市・豊浦町合併推進協議会（任意協議会）第1回会議
（平成14年1月25日）



新発田市・豊浦町合併協議会（法定協議会）第2回会議
（平成14年10月10日）



合併協定調印式
(平成14年11月6日)



合併協定書



合併申請書提出
(平成14年12月19日)



豊浦町閉町記念イベント「とようらまち夢フェスティバル」
(平成15年6月8日)



豊浦町閉町式典
(平成15年6月18日)



豊浦町閉庁式
(平成15年7月4日)



新発田市・豊浦町合併記念事業「七夕・出逢いの物語」
(平成15年7月5日)



新発田市豊浦支所開所式
(平成15年7月7日)



新発田市・豊浦町合併記念式典
(平成15年7月7日)



市町村合併功労者
総務大臣表彰



結ぶ二つの力、未来創造へ

福井県と新潟県が出発点「七ヶ宿」を境に新潟県新発田市と福井県新発田市と血通町がつながって、二つの力と二つの心から生まれる新たな力が、二つの未来を担う10校の子どもの心から輝き出す。二つの力が結ぶ未来創造へ。

「まなびのちから、つなぐちから」
新発田市立新発田小学校



「食のちから、つなぐちから」
新発田市立新発田小学校



「いのちのちから、つなぐちから」
新発田市立新発田小学校



「新発田市は、子どもたちが安心して暮らすことができるまちです。そして、子どもたちが活躍できるまちです。」
新発田市立新発田小学校



「新発田市は、子どもたちが安心して暮らすことができるまちです。そして、子どもたちが活躍できるまちです。」
新発田市立新発田小学校



「百鬼のちから、つなぐちから」
新発田市立新発田小学校



新発田市との合併に当たって
市長 菅野 秀夫
新発田市は、福井県と新潟県が出発点「七ヶ宿」を境に、二つの力と二つの心から生まれる新たな力が、二つの未来を担う10校の子どもの心から輝き出す。二つの力が結ぶ未来創造へ。

平成 15 年 7 月 7 日 新潟日報朝刊・全県版掲載

次代の夢を乗せて発進！

新生 新発田市が動き出します

平成十五年七月七日、九万市民の希望と夢を乗せて、新生新発田市が発進する。市街地を擁する北陸前田川原町と新発田市は同じ歴史と文化を共有。生活圏も重複していることから、いち早く合併の議論が高まっていた。今回の合併は新発市町村合併促進協議会、新発市の合併となる。

新発市の中核部は
 新発市の中核部は、新発市の中核部である。新発市の中核部は、新発市の中核部である。

新発市の歴史
 新発市の歴史は、新発市の歴史である。新発市の歴史は、新発市の歴史である。

新発市の未来
 新発市の未来は、新発市の未来である。新発市の未来は、新発市の未来である。



新発市・新発市・新発市

平成15年7月7日 新潟日報朝刊・全県版掲載